

第149回 まちのかお

株式会社イセヤス建材
代表取締役 鈴木茂喜さん

「市内公共施設の囲いは、大体イセヤス建材」 暮らしを守る外構工事のリーディングカンパニー。



<http://www.chigiri-paper.jp>

スギやヒノキなどの薄い木の板を円形や楕円形に曲げてつくる曲物は、古くから容器や道具として庶民の暮らしに広く用いられてきた。現在では、人々の生活様式の変化や、アルミ、ステンレス、プラスチックなどに原材料が代わったことで、生活必需品だった曲物は姿を消していったものの、中華料理店で目にする点心の蒸籠(せいろ)や、手水舎の柄杓、『わっぱ』と呼ばれる弁当箱など、木の風合いや質感が好まれ商品には、現在も利用されている。

曲物の街として知られる清洲から移り住み、初代・安藤安太郎が豊橋で『伊勢安商店』を創業したのは、今から100年余り前のこと。当時の主力商品は、曲物の枠に金網を張った篩(ふるい)。小麦や蕎麦、豆などの分別はもちろん、農業や土木作業でも、土や石を振り分けるのに重宝されていたという。二代目の安藤茂治郎が、大量生産や作業の効率化が難しい曲物から、機械化、量産化できる金網の製造に乗り出したのは戦後間もなく。中古の金網織機を購入したのが始まりだそうだ。

「金網需要の高まりを契機に組織化し、株式会社伊勢安金網製作所を設立したのは1952年のことです。やがて時代は高度経済成長に突入。それまで隣地を隔てていた生垣などの植栽は、次第に鉄製のフェンスに取って代わります。この頃から、金網の製造だけでなく、施工も一緒に依頼したいという声が多くなり、要望に応じて設置工事まで請け負うようになったそうです。」

業界でもトップクラスのシェアを誇る金網メーカーに成長した伊勢安金網製作所。その工事部門から独立した株式会社イセヤス建材は、昨年設立40周年の節目を迎えた。多目的フェンスの施工を主軸に、外構工事をはじめとする各種エクステリア関連事業全般に対応。使用用途や形状に合わせたプランニングから設計・施工までを一貫して提供している。

また、東三河地域を中心とした治山事業や海岸整備事業、安全施設などの工事も手掛け、東三河地域を中心とした公共施設をメインに、企業から住宅まで幅広く事業を展開しつつ、地域の災害・安全対策にも尽力している。

「一言で『フェンス』といっても種類や用途は様々です。イセヤス建材は、学校や公園の防護柵、スポーツ施設の防球ネット、道路のガードレール、目隠しフェンスなど、皆さんの身近にあって、暮らしを安全で快適にするための工事を行なっています。また、機能性や安全性はもちろんですが、

公共施設にも景観に配慮したデザイン性の高い製品を提案し、エクステリアでまちを盛り上げ、豊かな環境づくりの一役が担えればと考えています。」

カーポートや駐輪場、物置からウッドデッキまで、建物以外の外回り構造物も数多く手掛けるイセヤス建材。市内公共施設の囲いは、大体イセヤス建材だ。



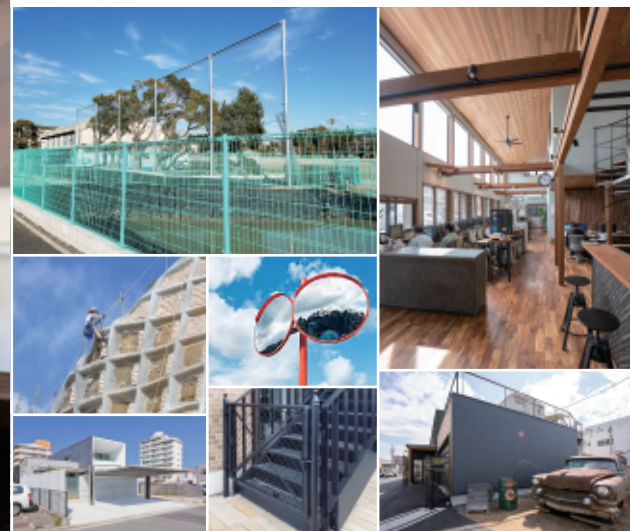
▼プロフィール (すずき・しげき)さん
1967年、豊橋市生まれ。豊橋市立豊城中学校出身。大学を卒業後は建材メーカーに就職。3年間勤務した後、経営学を学ぶためカリフォルニア州 サンタモニカ大学へ留学。1994年、父親が大病を患ったため、帰国して株式会社イセヤス建材へ入社。父親に代わり、職人気質で昔気質の会社で孤軍奮闘。営業から資材・現場管理まで行い、同時に社内環境の改善に努める。2010年、代表取締役役に就任。2014年、一般住宅向けエクステリア部門設立。2021年、本社社屋新設。



株式会社イセヤス建材
代表取締役 鈴木茂喜さんインタビュー

**公共工事で培った技術を生かし
これからの時代を見据えた
新たなエクステリアで
皆さんの幸せな生活を支えたい。**

曲物に始まり、金網製造、外構工事と
時代の潮流に合わせて変化し続ける企業の
新たなチャレンジが始まる。



豊橋市菰口町二丁目66番地
TEL.0532-33-3303

イセヤス建材 検索

<http://www.iseyasu.jp>



失敗は成功の素

金網を織る機械の音が子守唄代わり。兄弟のいない私の遊び場は工場で、従業員は家族同然。会社の中で育ったようなものですし、「息子なんだから継ぐのは当たり前」と父親に刷り込まれていたもので、将来の夢とか仕事などはあまり想像することもなく、敷かれたレールの上をゆっくり歩き、会社という狭い世界の中で、のほほんと過ごしていました。でも、だんだんそのレールを窮屈に感じて…。25歳の時、親の猛反対を押し切り、ビジネスを学ぶためにアメリカへ留学。そこには、世界中からエネルギーあふれる人たちが集まっていて、誰もが意欲的。講義では、

地元の企業と一緒に商品の販売戦略を練るなど、実践的な内容も多く、刺激に溢れていました。また「失敗することよりも、挑戦しないことが最も悪い」とされ、固定概念にとらわれないチャレンジ精神は、今も最も大切なことだと認識しています。

職場の環境が人をつくる

父が病に倒れたと知らせが届いたのは、渡米して2年が過ぎた頃。社業を担うため、大学を辞めて日本に帰国したものの、待っていたのは厳しい現実でした。

伊勢安全網から独立し、癖の強いワンマン社長だった父が舵を取るイセヤス建材は、従業員ももれなく癖が強く、気性

の荒い職人気質。船頭不在の社内はまさに無法地帯で、部屋中にタバコの煙が立ち込め、誰が何の仕事をしているのかも把握できない。懸命に社内をまとめようとするも、右も左もわからない若造の言うことなど聞く耳も持ってもらえませんでした。しばらくは、営業と材料の手配、現場の段取りで、眠れない日々を過ごしました。人生で一番辛く、苦労した時期だったかもしれません。

これからのイセヤス建材

この数十年、凄まじいスピードで時代が変化しています。創業40年を節目に過去を振り返り、先代達の会社運営に学び

ながら、これからの時代を見据えた新たな事業にチャレンジする必要があると考えました。そこで、これまで公共工事で培った技術力を生かしつつ、安全性とデザイン性を兼ね備えた、創造性豊かなエクステリアの提案を実施します。スポーツや趣味と同様、まずはカタチから入るのもいいかなと…エクステリア商品をふんだんに使用し、新たな使い方を提案する新社屋兼ショールームを建設しました。また、事務所内も開放的で工夫を凝らせたスペースに仕上げ、創造力と発想力を掻き立てるような環境づくりに努めています。この新社屋を拠点に、皆さんの生活を豊かにする情報を発信していきます。